

小中連携だより

比布町立中央小学校
比布町立比布中学校
発行：2020年2月26日
第2号

「のに」がつくとぐちが出る

比布町教育研究所副所長 紺野元樹

相田みつをさんの詩の一節に「『のに』がつくとぐちが出る」というのがあります。

14年前、私は、小中併置校の教頭でした。併置校とは、子どもの数が少ないので、小学生と中学生が同じ建物で生活し、運動会や学芸会等の行事も合同で行う学校です。職員室も1つで、小・中の先生が会議も一緒に行います。私がいた学校も教職員の雰囲気はよかったのですが、ふとしたときに次のようなぐちが出ます。

「俺たちは部活があるのに」（中学校教員） 「私たちは空き時間がないのに」（小学校教員）

これに続く言葉は、「いいなあ小学校は。放課後何もなくて」「中学校は授業の持ち時間が少ないね」です。あるとき、「今日は4時間も授業が入っているんですよ」と若い中学校教員がぼやいたので、「いいか、小学校の先生の前で絶対そんなこと言うなよ!」と注意したこともありました。小学校は複式（2学年が同じ教室で学習する形態）だったので授業準備も2学年分、しかも空き時間がないという苦勞をわかっていない発言でした。反対に小学校の教員は、中学校の部活や進路指導の大変さをともしれば見失ってしまうこともあります。

昨年も書きましたが、小学校も中学校も同じ義務教育ですが、小中の壁・独自の文化が存在します。今はうまくいっている比布も時間をかけて、「のに」を減らしてきたのだと思います。しかし、それぞれのよさを理解し、違いを尊重しないと、「のに」が増殖する恐れもあります。

今年度、ある会が主催する教育研究論文助成事業で、比布町の小中一貫教育の実践が特選に選ばれ、全国に推薦されました。5年間積み上げてきたことが全道的に認められたことは大変うれしいことです。ただ、比布の小中一貫教育が持続可能なものになるように、また、「のに」が増えないように、ここで一度取組を振り返り、マイナーチェンジすることが必要です。

次年度も「すべては比布の子どもたちのために」という理念のもと、決して無理をせず、保護者・地域の皆様のお力もお借りしながら、地道に小中一貫教育を進めていこうと思います。

●小中合同マラソン大会

令和元年9月19日（木）、右の表のような日程で小中合同マラソン大会を実施しました。

右の写真のように、小学生の走る姿を中学生が応援したり、逆に小学生が一生懸命、中学生に声援を送ってくれたり、感動的な行事となりました。



●中学校生活体験

令和元年10月3日（木）、小学6年生を対象に中学校生活体験を下の表の日程で実施しました。

時間	教科	場所
8:20~8:30	朝の会	3階 多目的室2
8:35~9:25	1時間目：授業見学	1~3年生の授業場所
9:35~10:25	2時間目：国語	3階 多目的室2
10:35~11:25	3時間目：理科	理科室
11:35~12:25	4時間目：音楽	音楽室
12:25~12:55	給食	3階 多目的室2
12:55~13:10	アンケート記入	3階 多目的室2
13:10~13:30	昼休み	
13:35~14:25	5時間目：全校集会	1階 武道場
14:25~14:35	帰りの会	3階 多目的室2
15:00~15:50	部活動体験	各部活動の活動場所へ

右の写真をご覧ください。朝、きちんと整理整頓を心がけている6年生の意識の高さに感動しました。

1時間目の授業見学は、中学生が実際に授業をどのように受けているのか？（中1が数学、中2が保健、中3が国語）を見て回りました。真剣に授業に臨む中学生の様子を見て、6年生の皆さんも雰囲気がつかむことができたのではないかと思います。



2時間目から4時間目は、実際に授業を受けました。中学校の授業がどのようなものなのか？教科によって先生が変わることでどんな違いがあるのか？などを体験しました。

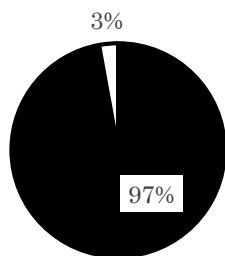
5時間目は、中学校生徒会本部が企画した全校集会を行いました。

まず、生徒会本部が中学校生活のことをわかりやすくスライドを使って説明しました。

次に事前に6年生の皆さんが出した、中学校生活についての質問について、中学生が答えていきました。勉強や部活動、先輩後輩の関係や中学校の先生についてなど、さまざまな質問が出ましたが、中学生は6年生にわかりやすく答えていました。

中学校生活体験で6年生にとったアンケート結果が以下の円グラフです。この日の体験で不安が少しでも解消し、6年生の皆さんが気持ちよく中学校生活のスタートが切れることを願っています。

中学校生活体験は来年に役立ちそうか？



■ すごくあてはまる □ あてはまる



●小中合唱交流会

令和元年10月4日（金）に、小中合同合唱交流会を行いました。今年度で3回目となる活動です。

まず中学生が学校祭で披露した自由曲を披露。続いて小学生が全校合唱を元気いっばいに響かせてくれました。最後はピアノ伴奏や吹奏楽部の演奏に合わせて、小中学生全員で「With You Smile」を合唱しました。全員で創りあげた合唱は、迫力満点、圧巻の一言！児童生徒の反省にも、それぞれの合唱のよさとともに、合同で歌った「With You Smile」の感想が多数含まれていました。



●出前授業

令和2年1月23日（木）、小学校4年生算数の授業を中学校の玉置先生が行いました。その時の児童の感想を一部、紹介します。

- ・算数の授業なのに、簡単に教えてくれてすごく分かりやすかった。中学校が楽しみ。
- ・ぼくには姉がいて、姉もこんな授業をしているのかなあと中学生になるのがどんどん楽しみになってきました。
- ・楽しかった。最後に中学2年生の問題が出てきてむずかしかった。

中学校の授業や先生の雰囲気を知る、とても良い機会となりました。

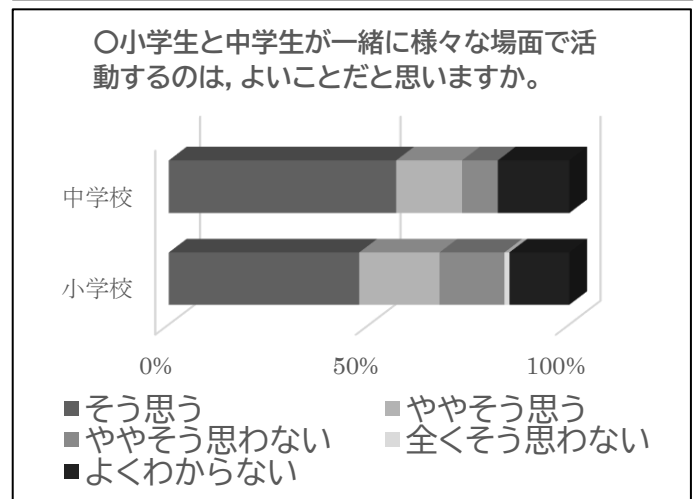
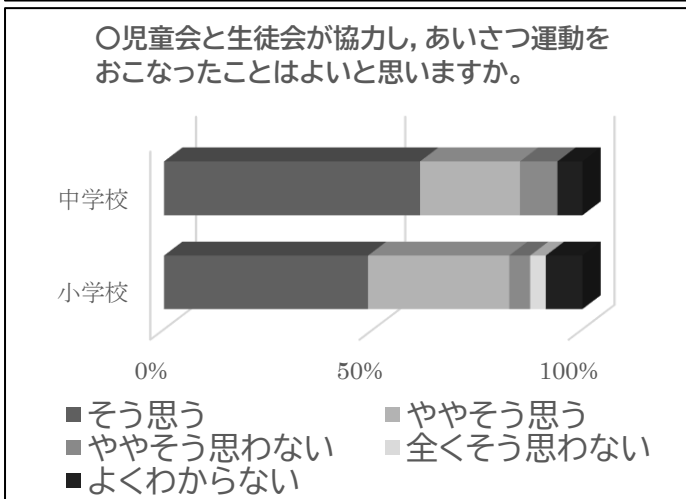
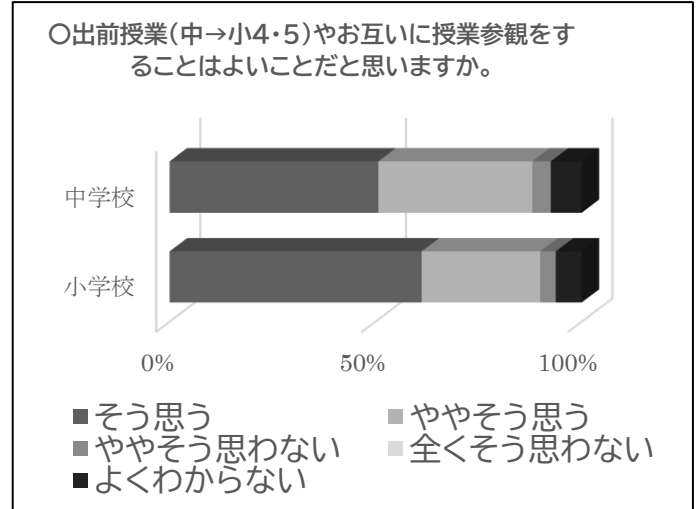
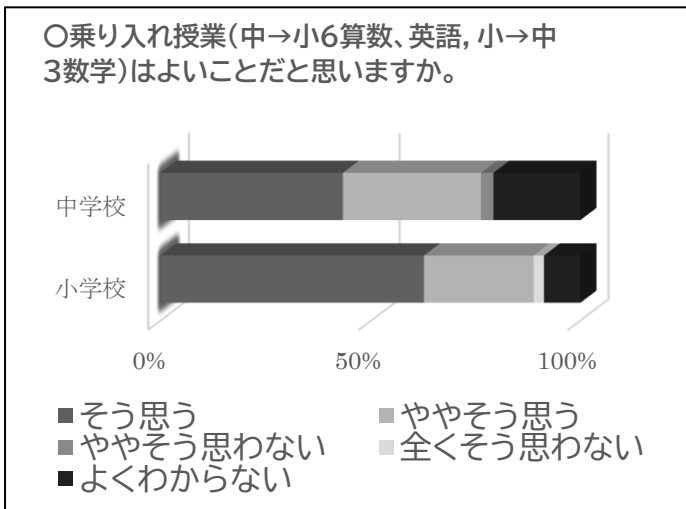
今年度の最後の出前授業は、2月26日（水）5年生体育を中学校体育科の佐藤先生が行う予定です。



●小中連携アンケート集計結果

11月に児童生徒、そして保護者の皆様に小中連携に関わるアンケートをとらせていただきました。その結果について紹介させていただきます。この結果を踏まえ、次年度以降の活動をさらに充実したものにしていきたいと思えます。

(1) 児童・生徒アンケート結果

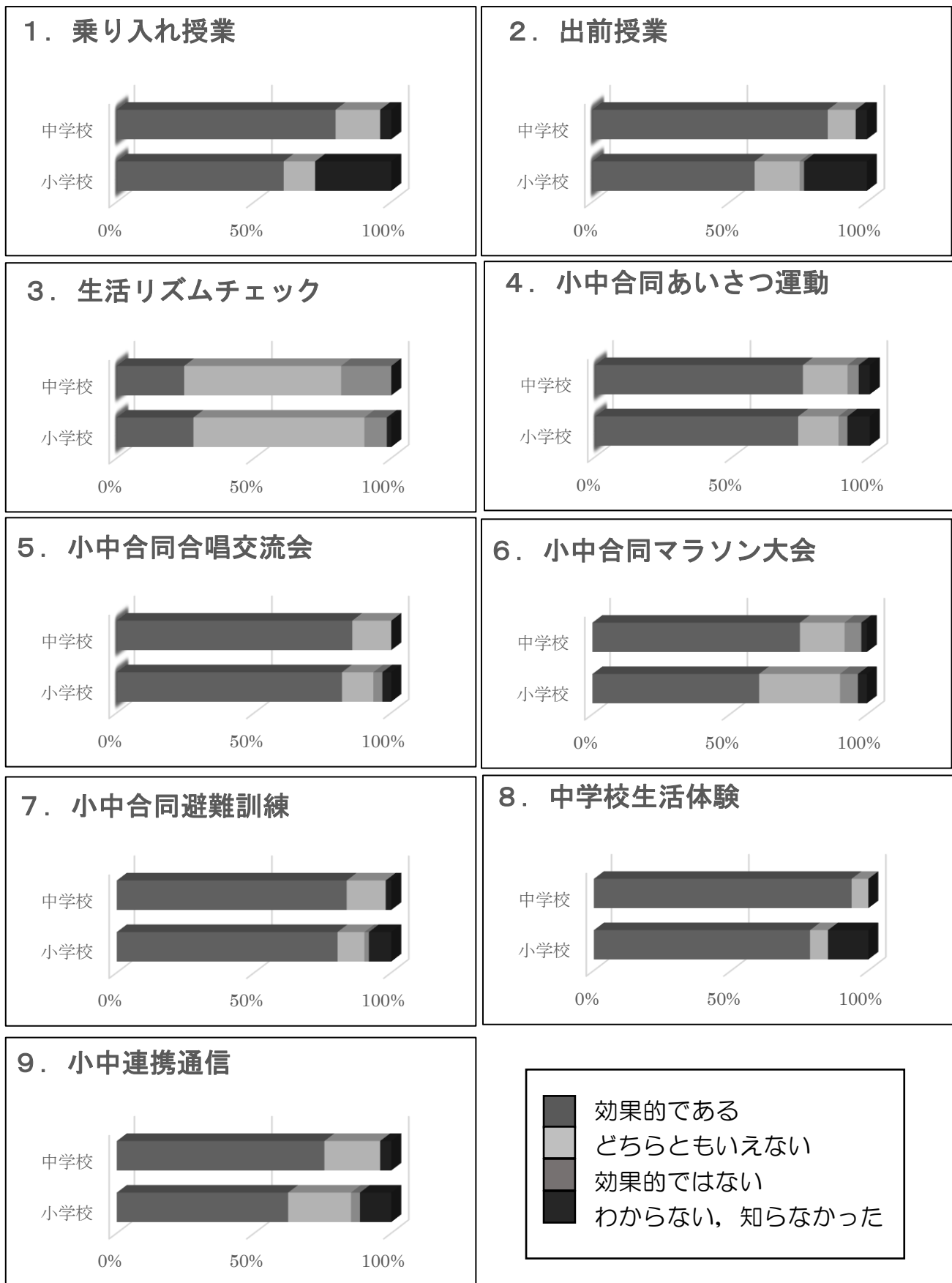


- ◎小中が一緒に活動することでどのような点が良いと思えますか。(小中より抜粋)
- ・中学校の様子がよくわかる。
 - ・一緒にいったほうが楽しい。
 - ・中学生が小学生を気遣い、小学生は中学生を見習う関係はお互いにとってプラスになっている。
 - ・小学生が中学生のを見てよいお手本とすることができるし、協力した方が効率がよい。
 - ・小中のかかわりを深めることができるから地域でのかかわりが増えたり、小学生が中学生をお手本にすることができたり、親近感をもつことができる。
 - ・お互いのことを理解できる。
 - ・合唱交流会など学校生活が充実する。

- ◎校舎が一体となり良かったことをかきましょう。(小中より抜粋)
- ・中学生とふれ合えたり、いろいろな人と会話できる。
 - ・体育・音楽・家庭科ができる場所が2カ所になった。
 - ・中学校の先生が来ることが増えた。
 - ・中学生がお手本になってくれるので、良い行動ができる。
 - ・小学校や中学校のそれぞれの施設だけではできないこともできる。
 - ・交流する機会が増えたり、中学校から小学校の様子が見られてよい。
 - ・小学校との交流があったり、合唱の交流、あいさつ活動などがありとてもいいと思う。
 - ・安心して中学校に行ける
 - ・中学校の校舎に慣れやすい

小中学生ともに「乗り入れ授業」「出前授業」に対する評価が高いですが、その中でも小学生の評価が高いです。小学生が中学校教員の授業を意欲的に受けていることが伺われます。また、中学生が小学校時代を振り返った時に、「乗り入れ授業や出前授業があったおかげで、中学校に入学したとき、なじみやすかった」という意見もあり、これらのことから、現在行っている取組が定着し、成果を上げていると考えています。

(2) 保護者アンケート結果



小中連携の実践については、「効果的ではない」という意見がほとんど無く、概ね保護者の皆様のご理解が得られていると考えます。また、昨年度のアンケート結果と比較しても、効果的であるという意見の割合が上昇しています。特に「乗り入れ授業」や「出前授業」に対する評価は高く、小学生の保護者はもちろん、中学生の保護者が現在の状況を踏まえ振り返ったときに、その効果を実感していると考えられます。ただし、生活リズムチェックについては内容や実施時期も含め、今後検討していく必要があります。